

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(みさき中茶屋 1F)】

事業所番号	2799200072		
法人名	株式会社 美咲		
事業所名	グループホームみさき中茶屋		
所在地	大阪府大阪市鶴見区中茶屋1-2-12		
自己評価作成日	令和2年9月26日	評価結果市町村受理日	令和2年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成25年11月1日にオープンして、もうじき7年が経ちます。今年にはコロナウイルス感染予防の為中々施設の外へ出て行事を行う事が難しかったため、室内で楽しんで頂けるレクに力を入れてきました。「今出来る事は限られているからこそ、笑顔で過ごしてもらえよう努力を！」スタッフと一丸となってさせて頂きました。また、出来るだけご入居者様やご家族様のご要望やご相談をお聞きさせていただけるように取り組んでおります。いつでも気軽に寄って頂けるような施設作りを目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル 4階		
訪問調査日	令和2年10月6日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は開設時に作った独自理念「入居者の皆様が笑顔とぬくもりのある毎日を送れるように、あたたかな心と専門性を持ち、地域とふれあい、一人ひとりの個性を尊重したケアの実践」を掲げて7年が経過した。以来利用者にはここが第2の我が家として落ち着いて頂けるような居場所づくりの提供に力を注いでいる。食に対するこだわりを持ち事業所の庭の畑を耕して季節の農作物を収穫し我が家にいるように今食べたい物を直ぐに提供する。少し遠出の遠足には家族にも参加してもらい共に楽しんでいる。レクレーション担当の職員が企画したイベントには最初の話し合いから利用者に参加して貰い利用者がアイデアを出して開催したイチゴ狩りでは本物のイチゴを洗濯バサミでつるしてイチゴを利用者が釣り上げてから食べて貰い好評を得た。またお寿司バイキングを行うなど利用者が少しだけ職員に手伝ってもらいながらの数々のイベントが盛り上がりを見せ利用者の皆さんに喜ばれてい

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に継続して掲示しており、職員は確認したうえで申し送りの時に、唱和し、日常業務に理念を実践できるようにしている。	法人理念を事業所玄関に掲げ、開設時職員と共に考えた事業所独自の理念は各フロアの職員が目につきやすい場所に掲げている。更に朝夕の申し送り時に唱和して日々のケアに活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年度はコロナウィルス感染予防の為運営推進会議で情報の共有のみ実践している。	事業所は町会に加入して各種町会の季節の行事に利用者と共に参加して交流しており、ボランティアの受け入れも行っていたが、コロナ禍の中で全てが中止となり利用者の命を守る事を最優先にした日々が送られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は実施できていない。今後は地域に向けて活かしていけるように取り組んでいきたい。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在の状況を報告し、もらった意見に対して、取り組みを行ったり、サービス向上に活かしている。	会議は奇数月の第3水曜日と固定化して開催し地域の町会長、地域包括支援センター職員、利用者、利用者家族が出席して事業所の活動内容が報告されている。地域代表や地域包括職員からはイベントなどの情報提供がある。	今後は外部評価の結果を公開したり、運営推進会議の議事録は家族に送付して会議の中身を知ってもらい事業所の運営状況、取り組みをより一層知ってもらう情報公開を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外にこれといった取り組みは出来ていない。	生活保護受給者が4名入所しており大阪市の生活支援課、高齢介護課には各種手続きや事故報告など行ってアドバイスを得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から身体拘束をしないケアを実践している。しかし、玄関の施錠については離設などの危険性を考慮して常に施錠を行っている。	事業所の玄関は安全のために施錠しているが各ユニット(3ユニット)間は自由に行き来出来るようになっており閉塞感を感じさせないよう配慮している。指針を作り身体拘束委員会を3カ月毎に行い、研修は年2回以上は行って全体会議の中で現場での言葉かけのタイミングや声掛け変換の在り方を学んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常的に職員の言動を注意し、職員同士の注意喚起も行っている。また研修等で理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて学習する機会を設け、理解を深め今後も必要に応じて活用の検討しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約内容について時間をとってわかり易く説明し理解して頂く様、努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設に来られた際や電話で状況を報告する際に意見や要望、苦情をいただくようにしており、すぐに改善できるように取り組んでいる。	家族会があり年1回親睦会を行っている。事業所便りを毎月家族に送り居室担当から利用者の現状を良い状態だけでなく悪い時でもありのままを知らせて取り組みを伝え、家族から好評を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や研修や日常的な業務の中で意見や提案を頂戴し、沿えるように取り組んでいる。	職員は年に1回の個人面談の中でそれぞれの目標を伝える機会を持ち、イベント、感染症、災害等5つの委員会の中では自分の得意分野を受け持ち提案を運営に反映させて、月1回の全体会議の中で出た意見は議事録に記載し、職員に回覧して共有している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内研修やチェックシートの活用にて、やりがいやスキルアップに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社や施設内での研修、勉強会等しているが、法人外の研修については乏しい状態である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会へ加入したがコロナウィルス感染予防の為現在は書面での活動報告書を参照している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とのかかわりを重視し、不安や悩み事を伺い、関係性を築けるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所時や電話での状況報告を密に行い、要望なども聞くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に見学していただいた際に、納得されるよう説明し本人、家族より情報を集めサービスの情報提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活という基本をもとに職員一同取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	まずは入居者本人のニーズを中心として家族の要望や意向も聴取し、関係づくりができるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時や入居前に思い出のものを聴取し、持参して頂いたり、家族と一緒になじみの場所へ散歩に行ってもらおうなどの取り組みを行っている。	利用者がこれまでの行きつけの理・美容室、喫茶店、食事会、お墓参りには家族と共に出かけている。友人や知人にはお手紙や電話をかけたりしてこれまでの関係が途切れないように支援体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の尊厳を擁護しながら、互いの性格やプライドを理解し共同生活ができるように取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も意見や相談を常に承っており、できる限りのフォロー、アドバイスをを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントの時に思いや希望などを聴取しており、できる限り本人にニーズに沿えるように取り組んでいる。	入居時に入居前の一人ひとりの暮らしを知るべく管理者とケアマネが2人で聞き取りを行い利用者の思いを知り、趣味や特技を活かせる事業所での生活スタイルを考えて暫定プランを作り上げ各場面で活躍してもらえるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントや家族や医療への聞き取りを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの日常を日々観察し、現在の状況をケアプランにも反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人のいま必要なことや介護者からの必要なことなどは意見会(ケアカンファレンス)を逐一行っており、現状に見合ったプランを作成している。	暫定プランから3カ月後、現状に見合ったプランを作り短期は3ヶ月、長期は6カ月毎に見直しを行っている。申し送り時に気になることや体調の変化を確実に伝え、必要な場合にはサービス担当者会議を行い計画を変更して家族に説明し現状に即した介護計画を作成している	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々個人別の生活記録にて、気になった部分やケアプランの実践状況を確認し、現状に見合ったプランを見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度管理者含めた職員同士話し合いを行い、リスクなども勘案し、できる限りニーズに沿えるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会に加入し、地域の情報が多くわかるようになってきたので、今後は地域との交流を深めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の意向を踏まえて医療の処置を施している。以前からのかかりつけ医からのサポートも支援を行っている。	入居前からのかかりつけ医にかかっている利用者は心療内科に通院している3名は居られるが、一般内科は全員利用者・家族の承諾のもと協力医(月2回)の往診を受けている。また歯科は週1回(歯科衛生士も同行)、眼科は月1回の往診がある。受診内容についての職員間の情報共有は管理者が作成した医療申し送りにより行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な健康管理と必要時に相談する事により、医療的な支援をさせて頂いております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者が入院した時は面会に行き、本人、家族と話し、退院後に生活について、病院関係者とも情報交換するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた段階で協力医療機関医師と相談、指示を受け、家族、職員間で困難になりそうな事を具体的に話し合いようしている。	入居時に看取り介護指針について説明し家族の同意を得ている。重度化した段階で利用者、家族、医師、看護師、職員で話し合い、その結果を文書で残している。職員の研修は月1回の全体会議で具体的に行い、対応方針の共有を図っている。現在まで重度化した利用者はいたが、医療行為が必要となり、看取りの経験はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルに従い、急変時、事故発生時には、速やかに関係各所と連絡を取り、適切に対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練の実施及び運営推進会議にて避難についての協力を呼び掛けている。	年2回の消防訓練を実施、本年2月は消防署立ち入りのもと夜間2階浴室のコンセントから出火を想定し、通報訓練、初期消火、水消火器による訓練を行った。また法人の災害対策委員による避難訓練も年2回行っている。法人のグループラインによる連絡網も整備されているが地域との協力体制には一部不安がある。	町内会の避難訓練に参加し、運営推進会議には地域代表の参加もあり、地域との協力体制は構築されているが、事業所の消防訓練への参加は実現していない。できれば事業所内の訓練に参加いただき、避難後の見守り協力等を依頼することが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳を保ったうえで職員には研修などにて接遇の勉強会をおこなっている。	接遇研修は年1回であるが、全体会議でも勉強会を行っている。特に言葉掛けには注意し、職員は馴れ合い言葉を慎み、立場をわきまえた言葉掛けを行うよう管理者は徹底した指導を行っている。職員間で注意しあう環境もある。個人情報適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的にコミュニケーションは行っており、本人が選択できるような環境づくりを取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに職員は合わせて、業務を行い、希望やニーズ抽出に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回の訪問理容や希望に合わせてその人らしいことが実現できるように取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理が得意な人には職員と一緒に料理を実施し、職員の食事は利用者と一緒に取り、雰囲気作りに取り組んでいる。	食材業者による献立付きで搬入される食材を職員らが事業所内で調理している。朝食とおやつは食材購入から調理まで職員が行い、レク担当職員がたこ焼き、ホットケーキ、おはぎ作り等を利用者と一緒に行っている。包丁さばきの得意な利用者は調理を手伝い、みそ汁を作るなどできることを楽しみながら過ごしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事は生活記録用紙で個々にチェックしている。一人ひとりの好みや状態に合わせた食事の提供 栄養バランスを考え提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科にて治療や助言を行っており、日常的に個々の口腔ケアのやり方でケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレでの排泄を目指しており、個々のパターンを把握し、職員が工夫して支援を行っている。	おむつ使用者は2名、その他はリハビリパンツ、布パンツにパットを使用している。トイレでの排泄を基本とし、パットは1枚と決めている。利用者一人ひとりの排泄パターンの把握はもとより、排泄の自立に向けたきめ細かい支援を行っている。夜間の安眠重視の利用者には、家族と相談の上、大きめのパットを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人ひとりの一日の生活の中で食事や水分量・排泄リズムなどを検討し、自然排便できるよう医療とも相談しながら取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やペースに合わせた入浴ができるよう支援している。	入浴日は週2回午前中と決めているが、利用者の意向に沿った支援を行っている。入浴拒否の場合には浴槽にピンク色の入浴剤を入れたり、その他入浴をそるような工夫をして入浴を促している。家族に協力を仰ぐこともあるが、気分をうかがいながらの話し合いによる成功事例もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜のメリハリを重視し、その上で個々の状態把握し、その人の安心を提供できるように取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋は職員が見やすいところに綴じており、職員把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	残存機能を活かし、役割を持ってもらい、日々楽しんでもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に沿って家族様とも相談を行い、個別に対応できるように支援を行っている。	近隣の散歩は毎日行っていたが、現在はコロナ禍により家族の面会も中止していることもあり、駐車場での歩行と日光浴にとどまっている。来月は利用者、職員と一緒に育てた安納芋の収穫予定であるので、駐車場で焼き芋を食す会を考えている。コロナ禍以前は2か月に1回は車で外出したり、家族と出かけたりしていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や能力を考慮して管理できる方には所持し、使えるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々の能力を考慮して、電話や手紙を使って家族などと交流を図っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感や時間の流れが把握できるような取り組みを行い、個々の思いや感情に対していい刺激になるように支援している。	居間兼食堂は日当たり良くすっきりとしている。ベランダから見える緑も目に優しい。壁面には折り紙細工や季節の果物の塗り絵、利用者の優しい笑顔の写真が飾られている。毎朝の清掃時には換気と手すりの消毒を行い感染症対策も行き届き、快適な共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	互いの関係性などを考えて座席の配慮を行っており、状況に応じてレイアウトの工夫を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族・入居者と相談したうえで慣れた家具やなじみのものを持参して頂けるように取り組んでいる。	居室の入り口には折り紙細工をあしらった表札が掛けられ、居室内は明るく清潔である。クローゼット、カーテン、ベッド、エアコンが備え付けられ、お気に入りの家具、写真、自作の風景画を飾るなど居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その人のできることを理解し、必要であれば福祉用具などを活用し安全に生活が送れるように取り組んでいる。		